

紫草活用で議論

筑紫野市商工会
街づくりシンポジウム
染色作品の展示も

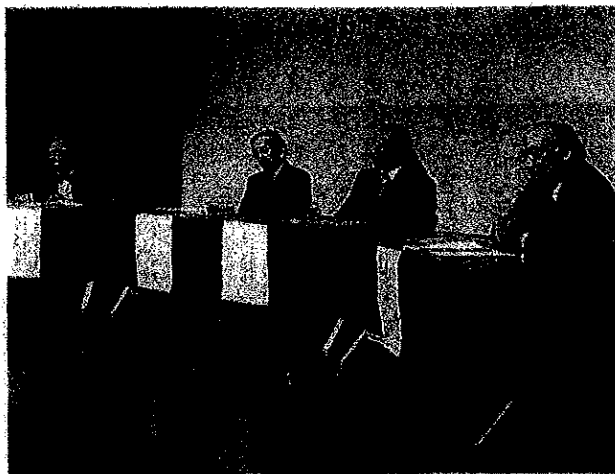
筑紫野市商工会(帆足忠勝会長)は十七日、同市ゆかりの紫草を活用して街の活性化を目指す「温泉と紫の街づくりシンポジウム」を九州国立博物館(太宰府市)で開いた。会場から質問が相次ぐなど、活発な議論が展開された。

筑紫野市の「紫はかいつて同市に自生し染料として都に献上された紫草が由来とされる。商工会は、この紫草を使った特産品作りに取り組むなど、紫を基調にしたまちづくりを進めている。シンポジウムは、県観光アドバイザーの岡部定

一郎氏と同市観光協会の久芳康紀会長が、同市や二日市温泉の歴史について講演。日本古代紫草染色工房を主宰し、紫草染めを復活させた石川貴啓氏のファッションショー、帆足会長はじめ関係者五人が参加したパネルディスカッションも開いた。

九博や太宰府天満宮の集客力に依存するのではなく、二日市温泉も含め、地域一体となった振興策の必要性などが論じられ、石川氏は「過性でなく、継続が必要。歴史的な縁もある筑紫野市が率先して、全国に紫草を広めるように頑張ってほしい」と話した。

この日、九州国立博物館エントランスホールでは、石川氏の作品展「蘇った紫草色の世界展」も開催。観覧無料。二十一



シンポジウムで意見を交わす関係者ら

日まで。